

科目名	高齢期作業療法評価学								
英文科目名	Occupational Therapy Evaluation for Geriatric								
担当教員	大橋幸子								
授業形態	講義								
学年	2年	クラス	1	開講学期	前期	単位区分	必	単位数	1
ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験に合格できる十分な学力と保健・医療・福祉分野における作業療法実践に必要な知識を持っている。</li> <li>・専門職として必要とされる基本的な技術・技能を修得し活用できる。</li> <li>・他者を尊重し協力してコミュニケーション・行動できる。</li> <li>・自らの能力を高める努力を惜まず、新たな課題にチャレンジすることができる。</li> </ul>								
授業の目的 到達目標	<p><b>【授業目的】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期障害の特徴と、高齢期作業療法に必要な検査・評価・情報収集について理解する。</li> <li>2. 高齢者の知的機能および認知症の検査・評価について理解する。</li> </ol> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期の問題および高齢期作業療法の対象となる主要疾患について理解することができる</li> <li>2. 高齢期障害の特徴を理解し、適切な検査・評価および情報収集ができる</li> <li>3. 機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure ; FIM) による ADL 評価ができる</li> <li>4. ケーススタディにより ICF の心身機能構造障害と活動制限の関係を検討することができる</li> <li>5. 生活行為向上マネジメント (MTDLP) について説明できる</li> <li>6. 認知症の評価方法について、それぞれの特性を理解し実施することができる</li> </ol>								
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、高齢期障害の特徴</li> <li>2. 介護予防および高齢者の心身の健康状態に関する諸評価</li> <li>3. 高齢期作業療法における情報収集と留意点</li> <li>4. 高齢期作業療法における身体機能の評価1</li> <li>5. 高齢期作業療法における身体機能の評価2</li> <li>6. 基本動作と ADL の評価1 : FIM</li> <li>7. 基本動作と ADL の評価2 : FIM</li> <li>8. 基本動作と ADL の評価3 : その他の評価法</li> <li>9. ケーススタディ : ICF の活用1</li> <li>10. ケーススタディ : ICF の活用2</li> <li>11. 生活行為向上マネジメント概論、MTDLP アセスメント演習 (高橋啓吾先生)</li> <li>12. 認知症の作業療法総論</li> <li>13. 高齢者の認知機能と認知症の評価1</li> <li>14. 高齢者の認知機能と認知症の評価2</li> <li>15. 高齢者の認知機能と認知症の評価3</li> </ol>								
学習演題 予習・復習	<p>第1・2・3回</p> <p>予習：教科書①p603-609をよく読んできてください。</p> <p>復習：講義内で触れた内容を整理してまとめてください。</p> <p>第4回</p> <p>予習教科書①p56-58をよく読んできてください</p> <p>復習：講義内で触れた内容を整理してまとめてください</p> <p>第5回</p> <p>予習教科書①p146-149をよく読んできてください</p> <p>復習：講義内で触れた内容を整理してまとめてください</p> <p>第6回</p> <p>予習：教科書①p213-227, 教科書②p83-104を読んでおいてください。</p> <p>復習：教科書②p90-104「セルフケア」項目を整理してまとめてください</p> <p>第7回</p> <p>予習：教科書②p105-133をしっかりと読んでおいてください。</p> <p>復習：授業講義内で触れた内容を整理してまとめてください。第6回</p>								

	<p>第8回 予習：教科書①p222, 229-230, 234-237, 617-619をよく読んできてください 復習：講義内で触れた内容を整理してまとめてください</p> <p>第9・10回 予習：教科書①p5, 10, ICFについて読んできてください 復習：講義内で触れた内容を整理してまとめてください</p> <p>第11回 予習：教科書⑦を大まかに読んでおいてください 復習：授業講義内で触れた内容を整理してまとめてください</p> <p>第12回 予習：教科書⑤「第II章 認知症のある人に対する作業療法で大切なこと」を読んでおいて下さい 復習：疑問に思ったところ、理解が十分でないところを教科書で確認しまとめてください</p> <p>第13～15回 予習：教科書①のp640～659, ③をよく読んできてください 復習：教科書③④の対応箇所を読んで理解を深めてください ※授業1回に対する予習・復習時間は合わせて1時間程度とする</p>
授業方法	講義, 演習
成績評価の基準	定期試験100%
教科書	<p>①標準作業療法学・専門分野 作業療法評価学第3版, 編集:能登真一他, 医学書院, ISBN978-4-260-01107-5</p> <p>②脳卒中の機能評価—SIASとFIM[基礎編](実践リハビリテーション・シリーズ) 千野直之, 金原出版, ISBN978-4-307-75033-2</p> <p>③高齢者のための知的機能検査の手引き, 大塚俊男, 本間昭, 株式会社ワールドプランニング, 1991, ISBN: 978-4948742024</p> <p>④OT 評価ポケット手帳第3版, 濱口豊大, ヒューマン・プレス, ISBN978-4-908933-21-9</p> <p>⑤高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版, 守口恭子, 三輪書店, ISBN978-4-89590-610-4</p> <p>⑥ベッドサイドの神経のみかた改訂18版, 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂, ISBN978-4-525-24798-0</p> <p>⑦事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版, 一般社団法人日本作業療法士協会, 医歯薬出版株式会社, ISBN978-4-263-26634-2</p>
参考書	作業療法学ゴールドマスター・テキスト 老年期作業療法学, 長崎重信・徳永千尋・田村孝司, メジカルビュー社, ISBN: 978-4-7583-1677-4
実務経験のある教員による授業	○
実務経験の内容	<p>常勤作業療法士として1986年4月より1992年3月まで大学病院系総合病院で勤務。</p> <p>非常勤作業療法士として1991年12月より2000年4月まで総合病院およびリハビリテーション病院。1986年9月より2012年2月まで特別養護老人ホームおよび介護老人保健施設で勤務。1994年5月より2000年3月まで保健センターにおける訪問リハビリテーションに従事。</p>
実務経験の当該科目への活用	医療機関および高齢者施設、訪問リハビリテーションでの作業療法業務を通して得られた実務経験をもとに、高齢期における作業療法評価に関する講義を行う。